

赤十字 NEWS

http://www.jrc.or.jp

JUNE 2019
NO.949

6

令和元年6月1日(毎月1日発行)
赤十字新聞 第949号
昭和24年9月30日 第三種郵便物認可

令和初の 全国赤十字大会 開催

令和元年 全国赤十字大会



平成から令和へと新しい時代に移り、日本赤十字社新名誉総裁となられた皇后陛下をお迎えして開かれた令和元年全国赤十字大会。新時代の幕開けとともに、日本赤十字社も決意を新たにして、皆さまと力を合わせ使命を全うしていきます。

CONTENTS

FEATURE__2・3

新名誉総裁とともに

TOPICS__4

赤十字とわたし
「古宮伸洋医師」

TOPICS__5

赤十字運動月間
赤井十子さんの
ワクワク赤十字体験！
「講習普及のお仕事」

AREA NEWS__6・7

群馬/長野/富山/香川/大阪/徳島
健康豆知識「脱水症対策」

WORLD NEWS__8

ハイチ大地震復興支援事業
1枚の写真から
「ノートルダム大聖堂」



赤十字新聞 編集・発行/日本赤十字社 広報室
〒105-8521 東京都港区芝大門 1-1-3
TEL: 03-3438-1311
一部 20円
赤十字新聞の購読料は会費に含まれています。

人間を救うのは、人間だ。

 **日本赤十字社**
Japanese Red Cross Society



令和元年5月22日、新たな時代の幕開けをお祝いするような青空が広がった全国赤十字大会当日。新名誉総裁となられた皇后陛下をお迎えし、今年も全国から会員やボランティアが出席する中、有功章の授与などが行われました。

**令和最初の記念すべき
全国赤十字大会を開催**

さる5月22日、明治神宮会館(東京都渋谷区)において、令和元年全国赤十字大会が開催されました。

平成の30年間、名誉総裁を務められた上皇后陛下から引き継がれ、5月1日付で新名誉総裁となられた皇后陛下と共に、名誉副総裁である秋篠宮皇嗣妃殿下、常陸宮妃殿下、寛仁親王妃信子殿下、高円宮妃殿下がご臨席。全国から集まった会員やボランティアの代表約1900人が出席する中、赤十字運動に著しい功績のあった個人や団体が表彰されました。皇后陛下より直接、有功章を授与されたのは、株式会社伊藤園本社など代表受章者の13人。また、社長

表彰受章者は、株式会社オンワードホールディングスの代表など2人でした。

式典では冒頭、近衛社長が「国際赤十字・赤新月社連盟が、5月5日に創設100周年を迎えた。『令和』の時代も、世界の赤十字が手を取り合い、共に歩めることを願う」とあいさつ。高階恵美子厚生労働副大臣からは、国内外を問わず精力的な日赤の活動を支えている職員やボランティアへの感謝とお祝いの言葉が述べられました。

その後、岡山赤十字病院の医師、齋藤博則さんから、平成30年7月の豪雨災害での活動について、神奈川県赤十字国際奉仕団の田中友美乃さんから、ユースボランティアとしての活動について発表がありました。2人の実践活動の報告に、皇后陛下ならびに各妃殿下は熱心に耳を傾けておられました。



平成30年7月豪雨災害の救護活動について、被災地の写真などを多用した実践活動の報告に、会場中が注目した

新名誉総裁 としとにも

令和初の全国赤十字大会を開催

**皇后陛下の温かいお気持ちが
参列者にも伝わり、感動が広がる**

昨年、同じ明治神宮会館の壇上で、当時の名誉総裁であられた上皇后陛下がご退場の際、皇后陛下の腕にそっと手を添えて、会場にいた人々に笑顔向けられました。あれから1年、はつらつとしたお姿で新名誉総裁として登壇された皇后陛下は会場から湧き起こる盛大な拍手で迎えられました。

名誉総裁として初めてご臨席された今大会。皇后陛下は会場を後にされる時にも、活動報告をした2人、駐日スイス特命全権大使夫妻ら一人一人と、お言葉を交わされていました。時折笑い声も起こるなど終始和やかな雰囲気、その場にいた誰もが皇后陛下の熱心さに引き込まれました。

第二部では、特別来賓として参列された駐日スイス特命全権大使ジャン＝フランソワ・パロ夫妻も登場し、「国際赤十字・赤新月社連盟100周年記念コンサート」を開催。玉川アルプホルンクラブ、東京ようでる合唱団、歌手の伊藤啓子さん、アコーディオン奏者の大口俊輔さんらによるスイス伝統のヨーデルが披露され、スイスの山々の風が吹き渡るような時間でした。



ご退場の際、皇后陛下はパロ駐日スイス特命全権大使夫妻とご歓談。夫妻は、皇后陛下の赤十字に対する理解と造詣の深さに大変驚かされていました

実践活動の報告



(左)
岡山赤十字病院
医療社会事業部長
さいとうひろのり
齋藤博則さん

(右)
神奈川県
赤十字国際奉仕団
たなかゆみの
田中友美乃さん

**発災直後から被災地で活動する医師と
国際的な活躍を続けるボランティア**

岡山赤十字病院の医師であり医療社会事業部長の齋藤博則さんは、平成30年7月に起こった豪雨災害における倉敷市真備町での支援活動について報告。「災害はいつどこで起こるか分からず、すべての人にとって当事者問題であり、日頃から減災・防災のために、関係各所が手を携えて協力し合うことが大切」と話しました。神奈川県赤十字国際奉仕団の田中友美乃さんは、「赤十字のさまざまな活動の中で、ユース代表も重要な意思決定に参画している。今後は、個人ボランティアと赤十字の活動とのマッチングや、ボランティアの力を生かせる環境づくりなどに尽力していきたい」と語りました。

皇后陛下から「連携が重要なですね」というお言葉をいただいたという齋藤さん。田中さんとともに、「体に気をつけて活動を続けてください」と励まされていました。また、齋藤さんからは「ボランティアの方々に支えられて我々も救護に専念できている」、田中さんからは「(実践報告で知った)災害の現場の生の声を、今後の活動に生かしたい」と、お互いにエールを送り合いました。

有功章 受章者メッセージ



山口県宇部市
社会福祉法人高嶺会
理事
わたに つよし
綿谷 強さん (73)

**宇部市に根付く「共存同栄」の精神で
皆で助け合って生きていきたい**

「私の赤十字活動は今年で58年目になります。高校時代の青少年赤十字から始まり、山口県で青年奉仕団を立ち上げ、全国で献血推進運動が始まった年には協力を広く呼び掛け、1日に750人を超える献血者を集めたこともあります。阪神淡路大震災では、日赤の防災ボランティアリーダーとして被災者支援に努めるなど、赤十字と共に歩んだ人生、といっても過言ではありません。現在は、安全奉仕団の副委員長として救急法の普及に取り組みなど尽力していますが、70歳を過ぎ、かつてのようにボランティアで日赤を支援することが難しくなってきました。そこで私が理事を務める社会福祉法人に赤十字への寄付を呼び掛け、ボランティア活動に替えて、法人としてまた個人として、寄付による支援に力を入れています。このたび、その貢献に対し、社会福祉法人高嶺会が皇后陛下から有功章を賜りました。私は、ボランティア精神の肝は、気づいた人が動く、自分ができることを見つけ、それを続けていくことだと思います。いただいた章を励みにし、今後も赤十字活動を支えて参りたいと思います」



no.002

日本赤十字社 和歌山医療センター 感染症内科部副部長
古宮伸洋 医師

きっと助けられる。助けたい。 エボラ、コレラ…感染症が蔓延する地へ

スコットが亡くなった……海外からのEメールの文面に、言葉を失いました。

2014年9月末。エボラ出血熱の海外医療支援から帰国して1カ月、和歌山医療センターでの診療中に、突然届いた訃報でした。西アフリカ・リベリアのエボラ治療センターで共に働いたDr.スコットランド。人懐っこい性格で毎日向こうから僕に声をかけてくれ、お互いの家族のことや将来の夢など、プライベートの話にも花を咲かせました。スコットはアフリカの医師には珍しく富裕層の出身ではなく、夜警の仕事をしてながら大学に通ったという苦勞人。エボラの大流行で国民が困っているからと、地方の病院を辞めてエボラ治療センターに移ってきたと話していました。彼と別れを惜しんだ時は元気そのものだったのに…。共にエボラに立ち向かった仲間をエボラによって失うということは、親しい同僚・友人を失うのとは違ったつらさがありました。

西アフリカでは感染への恐れから、エボラ患者だけでなく、その家族、また治療にあたる医療者が差別や迫害を受けることがありました。エボラは発症前の人間から感染する危険性はなく、発熱などの症状が出てから他の人への感染力を持ちます。日本においても多くの人はその事実を知らないため、僕がエボラ対策に関わることで僕の家族も差別を受ける可能性がありました。当時、エボラ治療センターで働いていた医療者の多くが、そういった葛藤を抱えてエボラ対策に臨んでいたのです。

僕は小学生の頃に見た途上国で医療支援を行う映像が忘れられず、医師になってから、国際救援を行う赤十字に転職しました。これまで多くの国際救援に参加しましたが、エボラ治療センターで見た光景は、その中で最も凄惨なものでした。センターでのエボラ患者致死率は60%にも上り、入院している患者たちは毎日多くの方が亡くなるのを目の当たりにしながら、病と闘っていました。鮮烈に覚えているのが一つのベッドで寝ていた母親と娘(10歳くらい)の患者です。朝の回診に行くと娘の横で母親は亡くなっていました。聞くと母親が亡くなったのは昨夜の7時頃とのこと。その娘は亡くなった母親と一晩同じベッドで過ごしたのです。冷たくなっていく母親の横で、少女はいったいどれほどの悲しみ



コレラ患者を診察する古宮医師(モザンビーク)

と恐怖を味わい、耐えたことでしょう。エボラには確実な治療法がないため、医師としてできることは、その患者に現れるさまざまな症状に対処することのみです。無力感に襲われながら、それでも諦めずに治療を続けました。…その経験から5年近く経った今、当時を振り返って言えることは、医療者でもエボラに感染するという不安や、家族に迷惑を掛けたくないという強い迷いがあったとしても、救うべき人・場所がある限り、僕はそこへ行かずにはられない、ということです。

— のインタビューに答えている5月現在、僕はアフリカ南部のモザンビークにいます。大型サイクロンの直撃を受けたこの地で、コレラの感染が急速に広まったためです。現地赤十字社、国際赤十字のチームと連携して、コレラの感染症対策に取り組んでいます。コレラは処置が遅れると死に至る病気ですが、適切に治療すれば助けられます。過去に僕が派遣されたソマリアのコレラ治療センターでは、当時600人が収容されましたが死者はゼロ、全員を回復させて家に帰すことができました。助かるはずの命を助けなければ、と使命感に動かされ、今日も患者のいる孤立地域を目指して、河を渡り、倒木を乗り越え、黙々と悪路を進みます。自分でも、懲りない医者だな、としみじみと思いながら。

●こみや・のぶひろ
北海道大学医学部卒業後、長崎大学熱帯医学研究所で熱帯医学を、国立感染症研究所FETPで感染症疫学を学んだ。兵庫県民主医療連合や東京都墨東病院などを経て、2012年から日赤和歌山医療センターに勤務。同センターでは、国際医療救援部副部長、国際感染症事業部副部長も兼任する。

古宮医師ってどんな人？



齋藤之弥

日本赤十字社
国際部参事

同僚

古宮先生の海外派遣を調整するのはモザンビーク派遣で10回目。帰還して更にレベルアップした先生とお会いする度に、この過酷な条件でもひるまず、実直にやり遂げられたんだ、と感心します。ジフテリアが蔓延したバングラデシュ南部でも感染源を追跡する執念に感服しました。



池田載子

大阪赤十字病院 看護師
大阪赤十字看護専門学校教師

同僚

多国籍の赤十字医療チームでは、それぞれの医師の経験、使用する薬などが異なり、限られた物資、与えられた条件の中で医師同士の調整が必要な場面があります。古宮先生は常に冷静で論理的、なのにユーモアもあり、誰に対しても誠実なので、まとめ役として抜群の存在感があります。



小林謙一郎

日赤和歌山医療センター
感染症内科 医師

後輩

前職の墨東病院で先輩だった古宮先生が活躍されている姿を見て、当院に移りました。救援は突然派遣が決まるため、科内のバックアップ態勢は常に万全、海外にいる先生の依頼で調べ物の手伝いをすることも。そんな私たちに先生は「救援に行けるのはみんなのおかげ!」と気を使ってくれます。

「赤十字運動月間」全国のキャンペーン活動

毎年5月は「赤十字運動月間」。赤十字活動への理解と支援の輪を広げようと、全国各地でイベントが開催されました。

兵庫県

人と防災未来センターで赤十字企画展



兵庫県支部は4月23日から5月12日、神戸市中央区の「人と防災未来センター」にて、企画展「日本赤十字社の使命と活動」を開催。4つのブースと映像コーナーを設置し、赤十字運動月間をPRしました。5月5日～11日は同館のレッドライトアップも実施し、多くの方の目に触れる機会となりました。

鹿児島県

子どもたちが日赤の「救護員」を体験



5月3日～4日、鹿児島市の天文館アーケードで開催されたお仕事体験イベントに鹿児島県支部が「日本赤十字社災害救護体験ブース」を出展。参加した子どもたちは、防災クイズや炊き出し、無線を使った交信、救護服の試着など、さまざまな体験を通して赤十字の災害救護活動を知る良い機会となりました。

香川県

盛り上がる赤十字フェスタ



香川県支部では4月28日、県内各赤十字奉仕団の協力のもと、高松丸亀町番町前ドーム広場で「赤十字フェスタ2019」を開催。工夫をこらした内容に多くの来場者が楽しんだ様子でした。

高知県

今年も華やかに！赤十字パレード



高知県支部は4月13日、赤十字パレードを開催。商店街のにぎわいの中、約300人が参加し、吹奏楽部とパトンの先導で行進しました。中央公園ではJRC加盟校の生徒と活動資金の募金も行いました。

北海道

親子で学ぶとっさの手当て



北海道支部は5月12日に、札幌市救急法赤十字奉仕団の協力のもと、AEDを使った心肺蘇生法や止血法などの体験を実施。参加した10家族に楽しく救急法を学んでもらうことができました。

赤井十子さんの ワクワク赤十字体験！

vol.1 講習普及のお仕事（幼児安全法講習）



この人形使ってください

講習準備も重要な仕事の1つです。今回は実践練習を行うため参加者へ講習用の人形を配りました。



AEDに切り替える直前まで胸骨圧迫を続けてください

AED (自動体外式除細動器)

実際のやり方を見てもらい、体験することで、胸骨圧迫の力加減や、AEDを使うタイミングなどの感覚をつかんでもらいます。

今回は参加者のお子さんを預かりながら指導しました。
※お子さんの同伴については、ホームページで各講座の参加条件をご確認ください。



いい子にしようね～



乳児と幼児の体格に合わせた救命法とAEDの使い方を指導

日赤の都道府県支部では「救急法」をはじめとしたさまざまな講習を行っています。今回は幼児安全法の講習会を担当しました。乳幼児を子育て中の方など総勢17人(親子5組)が参加。指導員が、乳幼児の事故で特に多い「誤飲」の応急処置と「AED」の使い方を教え、参加者全員に等身大の人形を用いて実践練習してもらいました。乳児と幼児では、胸部圧迫の力加減の差など、体格によって対処方法の違いがあることや、とっさの時の心構えを学び、参加者からは「もし目の前で子どもの事故が起これたら…と心配でしたが、講習を受けて不安が減りました」との声が上がりました。

あかいとおこ
赤井十子さん。
困っている人の役に立ちたい40代のママ。1年間のボランティア経験を経て、日本赤十字社の特命職員に！さまざまな活動をわかりやすく体験レポートします。

AREA NEWS

全国各地、あなたの生活のすぐそばで、日本赤十字社の活動は行われています。

群馬県 これからも「希望の翼」であり続ける前橋日赤でドクターヘリ運航10周年

4月14日、前橋赤十字病院で県内のドクターヘリ運航10周年の記念イベントが開催されました。ドクターヘリは、救急医療器材、医師や看護師を乗せて出動し、現場到着時から高度な医療を開始する“空飛ぶER(救命救急センター)”。治療開始の数分の短縮が救命率向上と後遺症の軽減につながるため20分で群馬県全域をカバーするドクターヘリには、さらなる活躍が期待されます。



記念式典と同時に開催のドクヘリ見学会や写真展も好評を博した

長野県 世代を超えてつなげていこう 児童向け防災教材を体験

4月20日、長野県の佐久市赤十字奉仕団が子どもたちと一緒に、未就学児向けプログラム「ぼうさいましがいがいさがし きげんはっけん!」を体験しました。参加した子どもたちからは、大人も驚くような発想やアイデアが続々と飛び出して会場は大盛況。また、日赤の活動資金募集についての説明会も行われ、赤十字活動の意義について理解を深めました。



大人たちも、間違い探しクイズのような防災教材に真剣になった

富山県

子ども食堂やデイサービスへGO! 青年赤十字奉仕団が再結成

日赤富山県支部では、青年赤十字奉仕団が再結成されました。4月20日、平成23年から休団していた青年奉仕団の再出発を飾る結成式には、社会人、大学生、富山赤十字看護専門学校の学生などさまざまな立場の10人が参加(団員数15人)。子ども食堂や乳児院、デイサービス施設などで活動を行い、富山県内の青少年赤十字や地域奉仕団などとも連携して活動を行っていく予定です。



個々にボランティア活動を行っていた若者たちが団結した

香川県

災害から命を守る「救護員」 2019年度の任命式を実施

全国の日赤支部・病院では毎年4月に、災害派遣される救護員を新たに任命します。4月9日、日赤香川県支部の救護員任命式が高松赤十字病院で行われました。香川県では医師・看護師・薬剤師・主事(ロジスティクス)で構成される日赤の常備救護班を8個班編成。助産師、診療放射線技師などの医療スタッフも含めて、幅広い業務への即応体制を備えています。



任命式の後は「J-SPEED(災害時診療搬送報告システム)」の研修も

常任理事会開催報告

令和元年5月24日、本社において令和元年度第2回の常任理事会が開催されました。今回の常任理事会は、付議事項はありませんでしたが、「平成の災害と赤十字」展、日本赤十字社の災害救護活動および関係機関との協働、予算の補正にかかる4月分の社長専決事項等の決定状況について、それぞれ報告しました。

第94回代議員会開催公告

令和元年6月28日(金)、午後1時から新霞が関ビル「全社協・灘尾ホール」(東京都千代田区霞が関3丁目3番2号)において第94回代議員会を開催し、下記の事項を付議いたします。

- 令和元年6月3日 記
- 第1号議案 役員を選出について
 - 第2号議案 平成30年度事業報告および収支決算の承認について

上皇后陛下から御下賜金

4月26日、上皇后陛下(当時の皇后陛下)から、日本赤十字社名誉総裁の御退任にあたり、日本赤十字社の事業奨励のために金一封を賜りました。この御下賜金は、災害等による被災者救済事業のための資金として有効に使用されます。

present プレゼント

令和元年を祝う 「お〜いお茶 新茶」 525mL 24本入り1ケース

5名さまに

祝事にふさわしい吉祥模様をデザインされた限定パッケージ

株式会社伊藤園より、赤十字全国大会にも無償提供いただいた新商品「お〜いお茶 新茶」をプレゼントします。今年芽吹いた摘みだての国産新茶100%(無香料・無調味)使用。

希望者は、以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールでご応募ください。

- お名前(匿名をご希望の方は、その旨もご記入ください)
- 郵便番号・ご住所
- 電話番号
- 年齢
- 赤十字NEWS6月号を手にされた場所(例/献血ルーム)
- 6月号で良かった記事、興味深かった記事はどれですか?(いくつでも)

- A.表紙
 - B.新名誉総裁とともに
 - C.赤十字とわたし
 - D.赤十字運動月間
 - E.ワクワク赤十字体験!
 - F.エリアニュース
 - G.健康豆知識
 - H.プレゼント
 - I.ワールドニュース
 - J.1枚の写真から
- ⑦赤十字NEWSのご感想、扱ってほしいテーマ、その他 Voice(読者の声)への投稿もお待ちしております。

郵送/〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社 広報室 赤十字NEWS6月号プレゼント係 FAX/03-6679-0785 メール/koho@jrc.or.jp (件名「赤十字NEWS6月号プレゼント係」) 7月10日(水)必着 ※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます ※今回のプレゼントの発送は(株)伊藤園から行われます

世界赤十字デー レッドライトアッププロジェクト 2019

世界赤十字デーである5月8日を中心に、全国のランドマーク施設や歴史的建造物を、赤十字のシンボルカラーである赤い光で照らす「レッドライトアッププロジェクト2019」を実施しました。今年もさまざまなランドマーク施設や企業さまにご参加いただき、赤十字運動への理解を深める活動が全国に広がりました。



ライトアップの開催情報は特設サイトでも紹介しています。 <http://jrc-tsudukeru/gekkan/>



コスモクロック21(神奈川県)



法然寺(香川県)

北海道	五稜郭タワー	5/8
青森県	津軽ダム	5/8
岩手県	盛岡城跡公園	5/8-31
	バーレーJ遊 仙台店	5/5-11
宮城県	バーレーJ遊 名取店	5/6-10
	鳴子ダム	5/8
秋田県	ポートタワーセリオン	4/26-5/31
	山形県郷土館「文翔館」	5/7-13
山形県	公益財団法人 上山城郷土資料館	5/7-13
	山田ダム	5/8
	東北電力福島名電カセンター無線鉄塔	4/26-5/8
	東北電力会津若松カセンター無線鉄塔	4/26-5/8
	東北電力いわきカセンター無線鉄塔	4/26-5/8
福島県	東北電力南相馬市の原町火力発電所の煙突	4/26-5/8
	摺上川ダム	5/8
	三春ダム	5/8
群馬県	富岡製糸場	5/7-9
東京都	六本木ヒルズ	5/8
	虎ノ門ヒルズ	5/8
神奈川県	横浜市開港記念会館	5/2-8
	コスモクロック21	5/8
石川県	金沢城公園 石川門	5/8-14
福井県	吉岡幸(株)テクノセンター	5/1-10
山梨県	山梨県庁別館	5/8-12
長野県	善光寺	5/8

長野県	松本城	5/8
	長野赤十字病院	5/8
	安曇野赤十字病院	5/8
	諏訪赤十字病院	5/8
愛知県	オアシス21 水の宇宙船	5/8
	京都府庁旧本館	5/8
京都府	舞鶴赤十字病院	5/8
	京都府赤十字血液センター	5/8
阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター		5/5-11
兵衛県	明石海峡大橋	5/8
	松江城	5/7-9
鳥取県	山陰中央テレビジョン放送株式会社	5/7-9
広島県	福屋 広島駅前店	5/8-14
	株式会社三宅商事本社ビル	5/1-31
山口県	海峡ゆめタワー	5/7-9
徳島県	鳴門市役所 本庁舎西面外壁	5/8-17
香川県	法然寺	5/1-8
福岡県	福岡市赤煉瓦文化館	5/8
	小倉城	5/8
佐賀県	佐賀県庁旧館(玄関)	4/26-12
長崎県	福佐山山頂電波塔	5/8
宮崎県	宮崎山形屋	5/1-14
	宮崎県庁本館	5/8-14
鹿児島県	株式会社 山形屋	5/1-31

大阪府

3年に及ぶ組織改編! 赤十字ボランティアをもっと1つに

4月15日、「赤十字奉仕団大阪府支部委員会」に、地域・特殊・青年という3つの奉仕団の代表者と指導講師が集結しました。これまでの同委員会は地域奉仕団が主体で、特殊奉仕団や青年奉仕団との交流や連携が少ないことが課題となっていました。68年ぶりの組織改編が実現し、今後は大阪府内の奉仕団が1つになり社会ニーズに応える活動を作り上げていきます。



年代や地域の垣根を超え、ボランティア同士の議論や連携が活発化 ※写真は昨年10月赤十字ボランティア・フェスティバルの様子

長野県

長野マラソンのランナーが 走りながら赤十字活動を応援

4月21日に開催された第21回長野マラソンに、全国から約1万人のランナーが参加。日赤長野県支部は、大会前日の受付会場で救急法講習のステージ発表を行い、来場者に赤十字活動のチラシを配布。レースには赤十字活動に賛同するランナー1898人がチャリティーエントリーし、ハートラちゃんシールを着用して春の信濃路を駆け抜け、赤十字のPRにもご協力いただきました。



ハートラシールを貼ったランナー(左)。キッズイベントも開催(右)

徳島県

大きくなったね! 楽しい身体測定 ~徳島赤十字乳児院の子育て支援

徳島赤十字乳児院では、毎月1回「ここにこほっぺ」という地域の子育て支援行事を実施しています。5月17日の回は「身体測定」でした。参加した6組の親子は、まずは手遊び歌や工作で元気に遊んでから、身長と体重を測り、かわいい手形をつけた「成長の記録」カードを作成。ベビーマッサージも実施しました。参加者は「月1回のこの会が親子で楽しみです」と語りました。



子育てを頑張る母親同士の交流もあり、憩いの場にもなっている

日赤のドクター&ナースが教える 知って良かった!

健康豆知識



水分のとり方にもコツがある!? 脱水症対策

飯山赤十字病院 透析センター長 山谷 秀喜(やまや ひでき) 医師 〒389-2295 長野県飯山市大字飯山226-1 TEL:0269-62-4195(代)

ポードリンクなど)や、経口補水液が有効です。より速やかな水分補給には水分の吸収効率が良くなるように作られた経口補水液がオススメです。経口補水液には少量のブドウ糖が入っています。適度な糖分によって、腸管での水分の吸収を高めるためです。ただし糖が多い(濃い)と逆に吸収効率を低下させるため、市販のジュースや清涼飲料水は水分補給に適しません。糖分と塩分は少量でよいので、それらを含みながら玉をなめながらお茶や水を飲むのも効果的です。なお、スポーツドリンクや経口補水液は状況に応じて飲むもので常用するものではありません。とくに糖尿病、腎臓病などの持病がある場合には、かかりつけ医と相談して適切に摂取しましょう。



のどが潤いていなくても、こまめな水分摂取が大切。熱中症予防のためにもお忘れなく。

file. 56

「知って良かった!健康豆知識」は切り取って保存していただけます

WORLD NEWS

ハイチ大地震復興支援事業



マグニチュード7.0のこの地震で犠牲となった人々は20万人以上。地震の後もコレラやハリケーンが被災地を襲った

大地震から10年、ハイチの今

長期にわたる支援によって、地域住民に広がった「自らを守る意識」。

コレラやハリケーン被害などが追い打ちも 混迷のハイチを支えた日赤の救援金

2010年1月にハイチ共和国を襲った巨大地震。これまで継続して実施されてきた日本赤十字社の復興支援事業が終了へと向かっています。日赤は発災当日に職員を現地に派遣したのを手始めに、資金や物資の援助、人的支援など各国の赤十字社とともにあらゆる局面で支援を続けてきました。

地震発生直後からの約半年間には、途切れることなく医療チームを現地へ派遣。日赤が開設した仮設診療所では、2万人以上の被災者が診療を受けました。また2010年7月からは、復興支援が本格化。保健事業と給水・衛生事業を担った日赤は、被災地のさまざまな村を訪ね、被災状況や人々のニーズをきめ細かく把握。井戸や給水所の新設・修繕などの衛生支援を、延べ14万人以上の人々に届けました。そんな復興支援事業が始まった矢先の2010年10月には、ハイチ全土でコレラの感染が拡大。さらに、2012年10月、ハリケーン

ンによる被害も起きるなど混迷する中、日赤は皆様から寄付していただいた総額約21億円もの救援金を投入し、10年間にわたり救うことを続けてきました。

現地の人々に保健衛生の知識が浸透 地域全体の行動変容へ

こうした復興支援の際に、現地の人々から金銭や物資の援助を求められることは少なくありません。特にハイチは“西半球の最貧国”^{ぜいじやく}とも言われており、脆弱な社会インフラや劣悪な生活環境から金銭的・物質的な支援にばかり目が行ってしまうのは無理もないことです。しかし、日赤では資金や物資だけではなく、知識という「かたちの見えない支援」にも力を注ぎました。地域の人々と深く関わり合う現地のボランティアに向けて保健教育プログラムを策定。そこで伝えられた健康促進や衛生面でのメッセージは、教育を受けたボランティアから地域住民へと広がっていきました。日赤による講習会の実施回数は1万6000回以上、講習会に参加した人数は延べ

26万人にも上り、知識を得た住民は自らトイレや手洗い場を作ったり、ごみ箱を使うようになるなど地域全体が大きく変化したのです。

また、現在、復興支援事業の最終段階として、ハイチ赤十字社の血液センターの再建が進行中です。日赤は8600万円の支援を実施。この新センターは、8月の完成に向けて急ピッチで建設が進められています。

10年間に及ぶ復興支援事業を終えた後も、日赤は現地の人々の心に寄り添いながら、見守り続けていきます。



© Fuminori Sato/日本赤十字社

健康や衛生に関する啓発が劣悪な環境下の地域住民を救う一助に



© Croix-rouge française

昼夜を問わず消火活動に励む消防隊員をフランス赤十字社が支援



ノートルダム大聖堂火災の消火作業をボランティアが支援

4月15日、フランス・パリにある歴史的建造物のノートルダム大聖堂で大規模な火災が発生。パリ市民が親しんだ尖塔^{せんとう}が崩壊するなど、850年余の歴史を持つ大聖堂に甚大な被害をもたらしました。

現場にはフランス赤十字社パリ支部のボランティアも駆けつけ、夜を徹して消火作業を行う消防隊員を後方支援。食事の配給や物資の運搬などのサポートに尽力しました。火災は発生から約9時間後の16日未明にほぼ消し止められ、主要部分は焼失を免れました。

赤十字ボランティアは、日頃からさまざまな活動で消防隊と連携し、活躍しています。ボランティアたちの献身的なサポートには、パリ市民からも称賛の声が上がっています。